

実態は、農業による所得税は納めたくとも納めることができないほどである。

このような農業に対し、市長は新年度予算にどのような視点で取り組むかを伺いたい。

答弁 J Aのあまり米の件については初めて聞いた。仙北市の農業政策は、複合経営を推し進め価格変動に耐えられる強い農業を目指している。

予算を組むにあたっては他の産業とのバランスを考え、予算を組みたい。

質問 仙北市にとって男鹿和雄展は千載一遇のチャンスである。教育委員会は仕事の集大成という意気込みで取組んだらと思う。歳入歳出予算や入場料に問題があるように思うが、最低でも東北全体に宣伝するくらいの思いでやるべきと思うがどうか。

答弁 今、実行委員会を中心に準備を進めている。展覧会はもちろんだが、関連イベント、協賛イベントの概要もまとまってきている。東北北の交流拠点都市を意識して取組み、多くの方々

に喜んでいただくようにしたい。入場者数については、1日500人で40

市民と協働のまちづくりについて 民間の力を借りて市政運営を行う



佐々木章

質問 市政の方向性が見えない現状においては、市民の声や力が行政の中で活かされるためにも、更なるNPOの立ち上げや活用が必要と考えるが、その考え方は。

答弁 市民でできるものは市民でと言う事を一つの柱として、今後もNPOを始め民間の力を借りながら、市政運営を行いたい。

質問 第三セクターが指定管理者の市の施設が多数存在する現状は、官主体の行政管理の延長にしかすぎず、第三セクターの救済策とも思われる。市の行政目的にかなったNPOの立ち上

日計算すると2万人となる。これはなんとなく実現しそうな気がする。

を働きかける事などにより、それに基づいて指定管理者制度をうまく活用して市民との協働の施設管理を行うべきと考え、その考え方は。

答弁 民間に委ねる事に委ねる、という考えに基づいて市民サービスの維持・向上、地域経済の活性化・雇用等を配慮しながら行政のスリム化を進めてきている。

質問 指定管理者のNPOの立ち上げを進める考えはないが、多くの提案が出される環境があるような社会形成となるよう働きかけていきたい。

質問 行政の柱の一つが観光である仙北市においては、統一性をもちた観光施策が必要と考えるが、三地区にそれぞれある観光協会について、今後どのような形で統一性を図っていくのか。

答弁 現在は、事務局レベルで観光協会連絡協議会を設置すべきということでもとまりつつある状況である。

それぞれの地域の特性を活かしたそれぞれの観光協会が、お互いに連携することによって総合力を高めることを狙いとして取り組んでいる。

質問 田沢湖病院・角館総合病院の現状と、今後の見通しについては。

答弁 平成19年度の累積欠損金は、田沢湖病院4億2000万

円、角館総合病院10億5000万円となっている。

市内の地域医療を持続的に保持する為に検討委員会をつくり改革プランの策定を進めているところである。

両病院の経営管理の一元化にある効率化を求めながら、医療サービスの低下を防ぐ為の結果が田沢湖病院の診療所化の方向付けである。

一地区の病院の問題ではなく、仙北市全体の地域医療の問題として捉えていただきたい。



3地区の統合が望まれる観光協会



入場者4万人を越え大盛況の男鹿和雄展